

科目ナンバリング	G-AAA05 55101 LB31				
授業科目名 <英訳>	地域研究論 Introduction to Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
通常科学（normal science）とは異なった地域研究の、学としての性格・歴史・成果・展望・課題などについて、研究科教員がオムニバス形式で自己の研究を踏まえて論じます。					
<b>[到達目標]</b>					
地域研究に関する多様な視点を理解する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回「オリエンテーション」 第2回「研究作法入門」 第3回「地域という専門性」 第4回「思想研究と地域研究を架橋する」 第5回「学術論文の書き方」 第6回「地域研究と歴史学」 第7回「プラクティカル・ランゲージ・セミナー」 第8回「博士号とは何か？」 第9回「渡航医学」 第10回「京都地域研究」 第11回「フィールドワークとポジショナリティ」 第12回「地域研究と学際」 第13回「フィールドで何を調べるのか」 第14回「文章を活用したフィールドワーク」 第15回「フィードバック」					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者はその課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を教務掛あてに提出して下さい。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。					
<b>[教科書]</b>					
適宜、資料を配布する。					
----- 地域研究論(2)へ続く -----					

## 地域研究論(2)

---

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

### (その他(オフィスアワー等))

第1週の「オリエンテーション」では、受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全教員にあらかじめ配布します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 55102 PB31				
授業科目名 <英訳>	アジア・アフリカ地域研究演習 Seminar on Asian and African Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	月3	授業形態	講義と実習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
地域研究を進めるうえで必要となる、さまざまな研究手法・作法や技術・言語、書籍や地理情報の利用方法を、実習形式で習得することを目指します。					
<b>[到達目標]</b>					
地域研究に関する多様な研究手法を理解する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1～2回「コンピュータリテラシー、ネットワーク」 第3～4回「なぜ地域研究を大学で学ぶのか？」 第5～6回「宗教研究実習」 第7～8回「アジア・アフリカ有用植物観察演習」 第9～10回「文献検索基本演習」 第11～12回「京都地域研究実習」 第13～14回「京都地域研究実習の成果発表」 第15～16回「GIS入門(1)」 第17～18回「GIS入門(2)」 第19～20回「フィールドで何を調べるのか：KJ法によるブレインストーミングの練習」 第21～22回「フィールドノートを書いてみる」  ( 本科目は実習を含む3単位科目である )					
<b>[履修要件]</b>					
特別な予備知識は必要としません。文理融合を前提とする地域研究の基礎的演習であるため、文・理それぞれのバックグラウンドを持つ受講生が、これまで触れたことのない分野を含めて、体験的に学習します。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
1. 毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2. 各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者はその課題の中から1つを選び、7月末までにレポート(約2000字)を教務掛あてに提出して下さい。 3. 成績は、平常点(50点)およびレポート(50点)を基準とします。					
<b>[教科書]</b>					
適宜、資料を配布する。					
----- アジア・アフリカ地域研究演習(2)へ続く -----					

## アジア・アフリカ地域研究演習(2)

---

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

### (その他(オフィスアワー等))

第1週の「オリエンテーション」では、受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全教員にあらかじめ配布します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 75103 PJ31				
授業科目名 <英訳>	アジア地域研究公開演習 Open Seminar on Asian Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。					
<b>【到達目標】</b>					
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に8回分の打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等</li> <li>・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等</li> <li>・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等</li> </ul>					
<b>【履修要件】</b>					
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。					
<b>【教科書】</b>					
随時紹介					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
自らの研究テーマに関する資料の整理					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 75104 PJ31				
授業科目名 <英訳>	アフリカ地域研究公開演習 Open Seminar on African Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。					
<b>[到達目標]</b>					
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等</li> <li>・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等</li> <li>・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。					
<b>[教科書]</b>					
随時紹介					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
自らの研究テーマに関する資料の整理。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 75105 PJ31				
授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究公開演習 Open Seminar on Global Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。					
<b>[到達目標]</b>					
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等</li> <li>・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等</li> <li>・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。					
<b>[教科書]</b>					
随時紹介					
<b>[参考書等]</b>					
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介					
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>					
自らの研究テーマに関する資料の整理					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA05 55131 PB31			
授業科目名 <英訳>	研究発信トレーニング Training on Research Presentation I		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 木下 こづえ アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 黒田 彩加	
配当学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
海外で学術調査をおこなうための研究計画書を作成する諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による研究計画書作成するための技術を獲得するとともに、計画書作成を通じて今後の研究の方向性や具体的なすすめ方をより明確にしていくことをめざす。					
<b>【到達目標】</b>					
海外で学術研究調査を実施する際に必要な研究計画書が作成できるようになる。また、そのことを通じて研究の方向性や具体的な進め方を明確にする能力をみにつける。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>(A) 以下の項目にそって講義と指導をうける（講義4回相当分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外学術調査をおこなううえで研究計画書を作成することの重要性、および学術調査を予定している国および地域に関して事前に収集すべき情報について。</li> <li>研究計画書を作成するうえで重要な研究目的、調査対象、調査方法、および調査日程をより具体的に検討していく方法。</li> </ul> <p>(B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文研究計画書を作成する（講義4回相当分）</p> <p>(C) 和文調査計画書を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で研究計画書を作成する（講義4回相当分）</p> <p>(D) 受講生全体で、各受講生の研究計画書を発表する。それに対して、担当教員が講評をおこなう（講義3回相当分）</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
講義への出席、和文と外国語による研究計画書の作成・提出、発表会への参加を加味しながら、担当教員が評価する。					
<b>【教科書】</b>					
適宜指示する。					
----- 研究発信トレーニング (2)へ続く -----					

## 研究発信トレーニング (2)

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する  
適宜指示する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に調査研究対象とする地域・国に関する基礎情報を予習しておくこと。  
研究計画書を作成して発表に臨むこと。発表の際に受けたコメント・助言に応じて修正を施して復習とすること。

### (その他(オフィスアワー等))

この講義は、研究計画書作成技術のトレーニングを目的としているため、この講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から研究内容について綿密に指導を受けて研究計画書を作成すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75132 PB31			
授業科目名 <英訳>	研究発信トレーニング Training on Research Presentation II		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 木下 こづえ アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 黒田 彩加	
配当学年	3-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
海外で自らの研究成果を発信するために必要な諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による高いレベルの口頭発表の技術を学び、その作業を通して研究者として必要な自己表現の方法や必要な外国語能力を修養する。					
<b>【到達目標】</b>					
母国語以外の言語で開催される国際学会、シンポジウム、ワークショップ等の研究集会において研究の成果を発信することができるようになる。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
(A) 以下の項目にそって講義と指導を受ける（講義4回相当分） ・海外で口頭発表するにいたるまでの準備についての講義と指導。 ・外国語で口頭発表をおこなううえで重要な資料準備の具体的な方法および留意的についての講義と指導。 (B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文による口頭発表のための資料準備をおこなう（講義4回相当分） (C) 和文の口頭発表資料を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で発表資料を作成する。担当教員が適宜個別に指導をおこなう（講義4回相当分） (D) 受講生全体で、外国語による口頭発表会をおこなう。担当教員は、各受講者の口頭発表に関して技術的な講評をおこなう（講義3回相当分）					
<b>【履修要件】</b>					
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
口頭発表資料の作成・提出、発表会への出席およびその発表内容・発表技術を加味し、担当教員が評価する。					
<b>【教科書】</b>					
適宜指示する。					
----- 研究発信トレーニング (2)へ続く -----					

## 研究発信トレーニング (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する  
適宜指示する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

口頭発表をおこなう研究成果の内容と発表構成を、事前に母国語によって十分に準備しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

この講義は、外国語による口頭発表技術のトレーニングを目的としているため、講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から発表内容について綿密に指導をうけて口頭発表資料を作成すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75134 OB31			
授業科目名 <英訳>	院生発案国際共同研究 International Research-Group Program for Graduate Students		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授 安岡 宏和 准教授 木下 こづえ 准教授 黒田 彩加
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	(対面授業科目)		使用言語 日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
地域研究の諸課題について、分野・地域横断的に、院生が主体となって国際共同研究グループを組織して国際ワークショップなどを企画する。					
<b>【到達目標】</b>					
地域研究の諸課題についての国際共同研究グループの組織・運営および成果発表とその準備の過程をつうじて、国際的な研究交流および研究経営の能力を身につける。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
(A) 院生の主体的な発案によって国際研究グループを組織し、参加する (講義4回相当分) (B) 担当教員と指導教員とともに国際研究集会の企画と発表の準備を行う (講義4回相当分) (C) 国際研究集会を実施し、研究成果を発表する (講義4回相当分) (D) 報告書を作成する (講義3回相当分) その後、学術誌等において成果を発表していくことが望ましい。					
<b>【履修要件】</b>					
臨地演習の単位を取得済みであることが望ましい。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
プログラムへの積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>【教科書】</b>					
特に定めない。					
<b>【参考書等】</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>					
選択した課題およびその関連テーマについて、広く予復習を求める。 自らの研究関心にとどまらず、地域や分野を超えた関連テーマについて積極的に学ぶ姿勢が求められる。					
(その他(オフィスアワー等))					
プログラム実施の詳細は臨地教育支援センターの定めるところによる。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA05 85107 LE31			
授業科目名 <英訳>	環境・感染症論 Environment and Infection	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究所 教授 山崎 渉 白眉センター 特定助教 OPHINNI, Youdiil		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	月3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
教員による講義および受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッションを通して、感染症を総合的に理解する。特に環境・ヒト・動物間における相互作用に着目して、感染症への理解を深める。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても社会生態学的視点から学習する。					
<b>【到達目標】</b>					
感染症を総合的に理解するために、病原体の生息する自然環境、動物を含めた自然環境にヒトが与える影響、感染を受けるヒト・動物の職種特異性などの様々な要因を社会生態学的視点から捉える能力を修得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
第1回～第10回は講義、第11回～第15回はプレゼンテーション・グループディスカッションになる見込みである。					
第1回 世界史を動かした感染症・動物種を越える病原体の伝播 第2回 生物兵器・バイオテロ・病原体の漏出事故 第3回 インフォデミック 第4回 プリオン病 第5回 蚊・マダニ媒介性感染症 第6回 薬剤耐性 第7回 動物福祉 第8回 食品衛生行政・環境衛生行政 第9回 ワンヘルス 第10回 地域ゲノム学 第11回 プレゼンテーション・グループディスカッションI 第12回 プレゼンテーション・グループディスカッションII 第13回 プレゼンテーション・グループディスカッションIII(参加者数によっては自習) 第14回 プレゼンテーション・グループディスカッションIV(参加者数によっては自習) 第15回 プレゼンテーション・グループディスカッションV(参加者数によっては自習)					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
<b>【評価方法】</b> 成績評価は出席姿勢（30%）、受講生によるプレゼンテーション(50%)とそれに基づくグループディスカッション(20%)における理解度、積極性、洞察力、意思表示の能力をもとに判定する。					
----- 環境・感染症論(2)へ続く -----					

## 環境・感染症論(2)

プレゼンテーションをしない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。

### 【評価基準】

100点満点中、60点以上となること（60点以上：合格 59点以下：不合格）。

### 【教科書】

教科書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をKULASIS内に共有する。

### 【参考書等】

#### （参考書）

参考書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をKULASIS内に共有する。

#### （関連URL）

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/>(東南アジア地域研究研究所)

<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/>(医学研究科 社会健康医学専攻 環境生態学)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

講義資料等を活用した予習・復習を推奨する。

### （その他（オフィスアワー等））

#### 【連絡先】

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46

京都大学東南アジア地域研究研究所 稲盛財団記念館215号室

山崎 渉

Tel: (075) 753-9618

Email: [yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85135 LE31				
授業科目名 <英訳>	地域研究と比較政治学 Area Study and Comparative Politics	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 Pavin Chachavalpongpun		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	(対面授業科目)	使用言語	英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>This course focuses on a wide range of literatures on comparative politics. In keeping with the spirit of comparative political science, most lectures involve a key paired comparison of two countries. We will also demonstrate how paired comparisons are changeable, given the types of questions one is pursuing. We will concentrate on six countries in Southeast Asia: Indonesia, the Philippines, Malaysia, Vietnam, Thailand and Burma. To fulfill the purpose of this course, we will discuss key themes from a comparative perspective, including the study of institutions, state formation and state-society relations, types of regime, political culture, political economy, and resistance and revolution.</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>To encourage students to think beyond the normative understanding of "Southeast Asia" and look into critical contemporary issues facing the region--issues that had their historical origin. Also, to expect student's active participation in class discussion, from the students' viewpoint that may challenge and contest the normative understanding of this region.</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>Class 1: Southeast Asia: Natural Region or Product of Power and Knowledge?</p> <p>Overview and Purpose: This class is to lay a foundation of the essence of Southeast Asian Studies with a purpose of analysing the subject from an indigenous stance.</p> <p>Required: Donald Emmerson, “ ‘ Southeast Asia: What ’ s in a Name? ” Journal of Southeast Asian Studies, Vol.15, No.1 (March 1984), Entire article. Alice D. Ba and Mark Beeson (eds), “ Contemporary Southeast Asia, ” Third Edition, (London: Palgrave, 2018), Chapter 1.</p> <p>Recommended: Victor T. King, Defining Southeast Asia and the Crisis in Area Studies: Personal Reflections on a Region, Working Paper No.13 (2005). Download: <a href="https://lup.lub.lu.se/search/files/4789058/3128704.pdf">https://lup.lub.lu.se/search/files/4789058/3128704.pdf</a>. Thongchai Winichakul, Southeast Asian Studies in Asia in the Age of Disruption, Institute of Developing Economies. Download: <a href="https://www.jstage.jst.go.jp/article/sea/2020/49/2020_11/_pdf">https://www.jstage.jst.go.jp/article/sea/2020/49/2020_11/_pdf</a>.</p> <p>Class 2 Colonialism: The Ghost of Historical Past</p> <p>Overview and Purpose: This class is to discuss the roots of colonialism in Southeast Asia and the lasting impacts on the region to</p>					
<p>地域研究と比較政治学(2)へ続く</p>					

## 地域研究と比較政治学(2)

---

understand the current political/economic/social situation of today.

### Required:

Wang Gungwu (ed), *Nation-Building: Five Southeast Asian Histories*, (Singapore: ISEAS, 2005), Chapter 1.  
Anne E. Booth, *Colonial Legacies: Economic and Social Development in East and Southeast Asia*, (Honolulu: University of Hawaii Press, 2007), Chapter 1.

### Recommended:

Lee Jun Jie, "Colonialism and ASEAN Identity: Inherited 'Mental Barriers' Hindering the Formation of a Collective ASEAN Identity," *Kyoto Review of Southeast Asia* (December 2018). Download: <https://kyotoreview.org/trendsetters/colonialism-asean-identity/>.

Robert Elson, "Reinventing a Region: Southeast Asia and the Colonial Experience," in *Contemporary Southeast Asia: Regional Dynamics, National Differences*, edited by M. Beeson, (New York: Palgrave, 2004). Download: <https://espace.library.uq.edu.au/view/UQ:70159/HCA10UQ70159.pdf>.

## Class 3

### Nationalism and National Identity: Making of Enemies

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the formation of nation state in Southeast Asia with a specific focus on the building of nationalism and national identity.

#### Required:

Clive Christie, *A Modern History of Southeast Asia* (1996), Any of these chapters: 3, 5, 7 and 9.  
Pavin Chachavalponpun, *A Plastic Nation: The Curse of Thainess in Thai-Burmese Relations* (2005/2010).

#### Recommended:

Mark Beeson (ed), *Contemporary Southeast Asia: Regional Dynamics, National Differences* (Chapter by Berger).

Thanet Aphornsuvan, "The Origins Malay Muslim 'Separatism' in the Southern Thailand," *Asia Research Institute, Working Paper Series No. 32* (2004),

## Class 4

### Ethnic Politics: Alienation and Statelessness

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the important role of ethnicity in the process of nation building by looking at the cases of Myanmar and Indonesia.

#### Required:

Mary Callahan, "Burma: Soldiers as State Builders," in Muthiah Alagappa (ed) *Coercion and Governance: The Declining Political Role of the Military in Asia* (2001).

Jacques Bertrand, *Nationalism and Ethnic Conflict in Indonesia*, Chapter 8.

Ivan Molloy, "The Decline of the Moro National Liberation Front in the Southern Philippines," *Journal of Contemporary Asia* 18(1), 1988.

#### Recommended:

---

地域研究と比較政治学(3)へ続く

## 地域研究と比較政治学(3)

---

David Webster, "Already a Sovereign People: A Foundational Moment in West Papuan Nationalism," *Pacific Affairs* 74(4), Winter 2001-02,

David Brown, "From Peripheral Communities to Ethnic Nations: Separatism in Southeast Asia," *Pacific Affairs* 61(1), Spring 1988.

Rizal G. Buendia, "The Mindanao Conflict in the Philippines: Ethno-Religious War or Economic Conflict?" in Aurel Croissant et al (eds), *The Politics of Death: Political Violence in Southeast Asia* (2006), 147-88.

### Class 5

Authoritarianism: How has it Survived?

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the emergence of authoritarianism in the wake of colonial politics. The purpose is to ask how colonialism sowed the seeds of authoritarianism in Southeast Asia.

#### Required:

Francis Fukuyama, *State-Building: Governance and World Order in the 21st Century* (2004).

Muthiah Alagappa, *Political Legitimacy in Southeast Asia: The Quest for Moral Authority* (1995).

#### Recommended:

Garry Rodan, *Transparency and Authoritarian Rule in Southeast Asia: Singapore and Malaysia* (2004).

William Case, *Contemporary Authoritarianism Southeast Asia: Structures, Institutions and Agency* (2013).

### Class 6

Democratisation Stalled: How to Make it Survive?

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the birth of democracy in Southeast Asia and its demise, also as a result of the lasting impacts of colonialism. It explores the cases of Thailand and the Philippines.

#### Required:

Pavin Chachavalongpong (ed), *Coup, King, Crisis: A Critical Interregnum in Thailand*, *Yale Southeast Asia Studies, Monograph 68*, 2020. Introduction Chapter

Kyaw Yin Hlaing, "The Politics of State-Society in Burma," *South East Asia Research* 15 (2), 2007.

#### Recommended:

Benedict J. Tria Kerkvliet, *The Power of Everyday Politics: How Vietnamese Peasants Transformed National Policy* (2005).

Robert Taylor, "Do States Make Nations?" *South East Asia Research*, 13(3), 2005.

Tin Maung Maung Than, "The Essential Tension: Democratisation and the Unitary State in Myanmar (Burma)," *South East Asia Research* 12 (2), 2004.

### Class 7

Binary Politics: National VS Local, Rural VS Urban Struggles

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the widening socio-economic gap in Southeast Asia investigating the collision

---

地域研究と比較政治学(4)へ続く

## 地域研究と比較政治学(4)

---

between national and local politics as well as between rural and urban development.

### Required:

Abinales and Amoroso, *State and Society in the Philippines*, Chapters 9 and 10.

Anek Laothamatas, "A Tale of Two Democracies: Conflicting Perceptions of Elections and Democracy in Thailand," in Robert Taylor (ed.), *The Politics of Elections in Southeast Asia* (1996).

John Sidel, "Democratisation and Bossism in Contemporary Thailand and the Philippines," *IDS Bulletin* 27 (2), April 1996.

### Recommended:

John Sidel, "Philippines Politics in Town, District and Province: Bossism in Cavite and Cebu," *Journal of Asian Studies* 56 (4), November 1997.

Ben Reid, "Historical Blocs and Democratic Impasse in the Philippines: 20 Years after People Power," *Third World Quarterly* 27 (6), 2006.

Benedict Anderson, "Cacique Democracy" and "Murder and Progress in Modern Siam," in *Spectres of Comparison* (1998).

## Class 8

### Power on the Peripheries and at the Local

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the issue of political marginalisation and how it communicated with the power centre. It traces the impacts of the Cold War in Thailand and Indonesia to understand insurgencies in the two countries.

### Required:

Duncan McCargo, "Thaksin and the Resurgence of Violence in the Thai South," *Critical Asian Studies*, 38 (1), 2006.

Martin Gainsborough, "Globalisation and the State Revisited: A View from Provincial Vietnam," *Journal of Contemporary Asia* 37 (1), 2007.

David Henley and Jamie S. Davidson, "In the Name of Adat: Regional Perspectives on Reform, Tradition, and Democracy in Indonesia," *Modern Asian Studies* 42 (4), 2008.

### Recommended:

Marc Askew, *Conspiracy, Politics, and a Disorderly Border: The Struggle to Comprehend Insurgency in Thailand's Deep South* (2007).

"Rethinking Thailand's Southern Violence," *Critical Asian Studies*, 38, 1 (2006). Any article.

Martin Smith, *State of Strife: The Dynamics of Ethnic Conflict in Burma* (2007).

## Class 9

### Monarchy: Anachronism?

#### Overview and Purpose:

This class is to discuss the issue of the monarchy in Southeast Asia to understand its survival and its future direction at the time the wave of democratisation has continued to dominate the region.

### Required:

---

地域研究と比較政治学(5)へ続く

## 地域研究と比較政治学(5)

---

Roger Kershaw, *Monarchy in Southeast Asia: The Faces of Tradition in Transition* (2002).  
Soren Ivarson and Lotte Isaga (eds), *Saying the Unsayable: Monarchy and Democracy in Thailand* (2010).  
Pavin Chachavalpongpun, "Monarchies in Southeast Asia", *Kyoto Review of Southeast Asia*, Issue 13 (Mar 2013). Available at <http://kyotoreview.org/wp-content/uploads/Pavin-English.pdf>.  
Duncan McCargo, "Network monarchy and legitimacy crises in Thailand," *The Pacific Review*, 18 (4), December 2005.

### Recommended:

Nazrin Shah, *The Monarchy in Contemporary Malaysia* (2004).  
G Braighlenn, *Ideological Innovation under Monarchy: Aspects of Legitimation Activity in Contemporary Brunei* (1992).

### Class 10

L#232se-majest#233 Law: Shut your Mouth!

### Overview and Purpose:

This class is to discuss Thailand's L#232se-majest#233 law which forbids anyone from criticising the Thai monarchy with a penalty up to 15 years. It examines how this law obstructs democratisation in Thailand.

### Required:

David Streckfuss, *Truth on Trial in Thailand: Defamation, Treason and L#232se-majest#233* (2011).  
Pavin Chachavalpongpun, "Thailand's L#232se-majest#233 Laws: A Potent Weapon", *East Asia Forum*, 26 December 2011, (Available at <http://www.eastasiaforum.org/2011/12/26/thailands-lese-majeste-laws-a-potent-weapon/>).

### Recommended:

David Streckfuss, *The Politics of Subversion: Civil Liberty and L#232se-majest#233 in the Modern Thai State* (Volume 4, 1998).  
Gregory G C Moore (ed), *The Open Society and Its Enemies in East Asia: The Relevance of the Popperian Framework* (2014).

### Class 11

Disciplined Democracy: From Myanmar to Thailand

### Overview and Purpose:

This class is to discuss the development of democracy in Myanmar and Thailand and asked why the Southeast Asian states have been able to craft their own type of democracy for their own political purposes.

### Required:

Marco Bunte: *Burma's Transition to Disciplined Democracy: Abdication or Institutionalization of Military Rule?*, GIGA Research Programme: Legitimacy and Efficiency of Political Systems, No.177 (August 2011), (Available at [http://www.giga-hamburg.de/en/system/files/publications/wp177\\_buente.pdf](http://www.giga-hamburg.de/en/system/files/publications/wp177_buente.pdf)).  
Lex Rieffel (ed), *Myanmar/Burma: Inside Challenges, Outside Interests* (2010).  
Michael Kelly Connors, *Democracy and National Identity in Thailand* (2007).

### Recommended:

David Scott Mathieson, "Burma's Disciplined Democracy is a Mockery of UN Standards", *Human*

---

地域研究と比較政治学(6)へ続く

## 地域研究と比較政治学(6)

Rights Watch (4 April 2011), (Available at <http://www.hrw.org/news/2011/04/04/burma-s-disciplined-democracy-mockery-un-standards>).

Joshua Kurlantzick, “ Thailand: A Democratic Failure and its Lessons for the Middle East ”, Council on Foreign Relations (March 2011), (Available at <http://www.cfr.org/thailand/thailand-democratic-failure-its-lessons-middle-east/p24485>).

Duncan McCargo, “ Thailand ’ s Army Tears up the Script ”, New York Times (29 May 2014), (Available at [http://www.nytimes.com/2014/05/30/opinion/thailands-army-tears-up-the-script.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2014/05/30/opinion/thailands-army-tears-up-the-script.html?_r=0)).

### Class 12

#### Social Media and Politics: Twitemocratisation

##### Overview and Purpose:

This class is to discuss the emerging role of social media as a tool for political change in Southeast Asia. It also explores the role of youths in politics and how social media empowers them through their political movements.

##### Required:

William Atkins, *The Politics of Southeast Asia ’ s New Media* (2002).

Quinton Temby, “ The Milk Tea Alliance and China ’ s Soft Power Problem in Southeast Asia, ”

Newsletter 89, International Institute for Asian Studies (Summer 2021), (Available at <https://www.iias.asia/the-newsletter/article/milk-tea-alliance-and-chinas-soft-power-problem-southeast-asia>).

##### Recommended:

Lawrence Bradford, “ Social Media Trends in Southeast Asia ”, *Lawrencebradford.com* (March 2013), (Available at <http://laurencebradford.com/social-media-southeast-asia/>).

Shobha Badrevu and Lim Sun Sun, “ Youth, Politics and Social media in Southeast Asia: Trends, Events and Implications ”, *Panorama* (2012), (Available at [http://www.academia.edu/2000316/Youth\\_Politics\\_and\\_Social\\_Media\\_in\\_Southeast\\_Asia\\_Trends\\_Events\\_and\\_Implications](http://www.academia.edu/2000316/Youth_Politics_and_Social_Media_in_Southeast_Asia_Trends_Events_and_Implications)).

### Class 13

#### Power from Below: New Alternative Political Forces

##### Overview and Purpose:

This class will showcase video clip concerning the birth of youths-led movement in Thailand in 2020. The purpose is to create an understanding of a new type of movement in the region.

### Class 14

#### International Politics: ASEAN and Regionalisation

##### Overview and Purpose:

This class is to discuss the international aspect of Southeast Asia by explicating the role of the Association of Southeast Asian Nations in regional integration.

##### Required:

Rodolfo C Severino, *Southeast Asia in Search of an ASEAN Community: Insights from the Former ASEAN Secretary-General* (2006).

## 地域研究と比較政治学(7)

Donald K Emmerson, *Hard Choices: Security, Democracy and Regionalism in Southeast Asia* (2009).

Recommended:

Pavin Chachavalpongpun (ed), *ASEAN-US Relations: What are the Talking Points?* (2012).

Michael G Plummer and Chia Siow Yue (eds), *Realizing the ASEAN Economic Community: A Comprehensive Assessment* (2009).

### 【履修要件】

Each student is required to read the week ' s assignment in its entirety before coming to class. (The books/ articles are available at the CSEAS library.) Each student will write a 2-3 page critical review essay on one of the readings to be submitted the day before class (so I can read it and prepare my comments). If you fail to submit the essay on time, you need not appear in class. One student will be assigned to lead each week ' s discussion. The reflection essay is not a mere summary of the book/article. It should contain at the very least:

- The book ' s or books ' main thesis/theses (or in other words, what is the author trying to convince us of?)
- The manner in which the author supports the thesis (or how the author uses evidence to support his/her arguments)
- Other issues that are raised as supplementary themes or sub-themes
- The significance of the book(s) to Southeast Asian studies and to comparative politics

Your essays should examine the themes more in depth than the readings allow. They should be comparative in scope; that is, compare and contrast between two countries.

### 【成績評価の方法・観点】

The student grade is divided into the following: essays (70%); contribution to class discussion (20%); attendance (10%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

( 参考書 )

Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism* (London: Verso, 1992).

Benedict Anderson, *The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World* (London: Verso 1998).

Vincent G. Boudreau, *Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia* (London: Cambridge University Press, 2005).

-----  
地域研究と比較政治学(8)へ続く

## 地域研究と比較政治学(8)

---

Mary P. Callahan, War and State-Building in Burma (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

Pavin Chachavalpongpun, A Plastic Nation: The Curse of Thainess in Thai-Burmese Relations (Lanham: University Press of American, 2005).

Pavin Chachavalpongpun, ed, Coup, King, Crisis: A Critical Interregnum in Thailand (Yale Southeast Asia Studies, Monograph No., 68, 2020).

Pavin Chachavalpongpun, ed, Rama X: The Thai Monarchy under King Vajiralongkorn (Yale Southeast Asia Studies, Monograph 69, 2023).

Noorhaidi Hasan. Laskar Jihad: Islam, Militancy and the Quest for Identity in Post-New Order Indonesia (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 2007).

Paul D. Hutchcroft, Booty Capitalism: The Politics of Banking in the Philippines (Ithaca, New York: Cornell University Press, 1998).

Andrew MacIntyre, The Power of Institutions: Political Architecture and Governance (Ithaca and London: Cornell University Press, 2002).

Alfred W. McCoy, An Anarchy of Families: State and Family in the Philippines (Madison: University of Wisconsin Press Center for Southeast Asian Studies, 1993).

Vicente Rafael, ed. Figures of Criminality in Indonesia, the Philippines and Colonial Vietnam (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 1999).

James C. Scott, The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia (New Haven and London: Yale University Press, 1977).

James C. Scott, Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed (New Haven and London: Yale University Press, 1998).

James C. Scott, Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance (New Haven and London: Yale University Press, 1985).

### [授業外学修（予習・復習）等]

Sometime students will be requested to study out of class and will be assigned to read class materials, to make a summary and possibly to make a presentation in class later.

### （その他（オフィスアワー等））

This class will be held every Tuesday, 2nd period.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 55124 FJ31				
授業科目名 <英訳>	臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
地域の全体像を理解するために必要な現地語の習得を目標として、受講生が現地に行き、そこで専門性の高い語学トレーニングを受ける。					
<b>【到達目標】</b>					
地域の全体像を理解するために必要な現地語の基本的事項を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員が設定した語学習得プログラムに沿って学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員とともに現地での語学習得計画を立てる（講義2回分）</li> <li>・現地にて40日以上滞在して語学トレーニングを受ける（講義12回分）</li> <li>・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回分）</li> </ul> （合計15回）					
<b>【履修要件】</b>					
<p>1.2年次に40日以上渡航した者。証明を添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。</p> <p><a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf</a></p>					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。					
<b>【教科書】</b>					
受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。					
<b>【参考書等】</b>					
<p>（参考書）</p> <p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。</p>					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
現地に赴くまえに、対象語学に関連した情報を収集して予備的な知識の蓄積が必要である。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 75125 FJ31				
授業科目名 <英訳>	臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
地域研究の成果を国際的に発信する力の強化を目標として、受講生を各々の研究分野に最もふさわしい研究機関等に派遣し、そこで専門性の高い研修・発表を行う。					
<b>[到達目標]</b>					
自ら行った地域研究の成果を国際的に発信することができる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
派遣先の研究機関等で、受講者の研究に関する専門性の高い研修・発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員とともに現地での語学習得計画を立てる（講義2回相当分）</li> <li>・指導教員とともに国際集会での外国語発表を準備する（講義3回相当分）</li> <li>・現地にて国際集会に参加し外国語での発表を行い議論への参加をする（講義9回相当分）</li> <li>・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回相当分）</li> </ul> （合計15回）					
<b>[履修要件]</b>					
国際研究集会において日本語(留学生は母国語)以外で研究報告等した者。プログラム、報告論文、参加証等の写しを添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf</a>					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。					
<b>[教科書]</b>					
受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。					
----- 臨地語学演習 (2)へ続く -----					

## 臨地語学演習 (2)

### [参考書等]

(参考書)

受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

派遣先に赴くまえに、自らの研究成果を整理し、派遣先で会う研究者に説明できるように準備が必要である。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85201 LJ48				
授業科目名 <英訳>	タイ語 (初級) Thai I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 弓庭 育子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。					
<b>[到達目標]</b>					
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<b>【学習方法】</b> 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。					
<b>【学習内容：会話】</b> 1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2．発音練習 母音、声調、子音 3．第1課 1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる 4．第1課 1けたの数字 5．第2課 2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる 6．第2課 2．4 3けたの数字 挨拶、否定の表現 7．第3課 3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる 8．第3課 3．4～3．6 完了、予定の表現 9．第3課 数字に関する表現 10．第4課 4．1～4．3 継続の表現 11．第4課 職業の表現 12．第5課 5．1～5．2 品詞と語順 13．第5課 5．3～5．4 親族名称 可能の表現 14．総括 15．フィードバック					
<b>[履修要件]</b>					
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。					
----- タイ語 (初級) (2)へ続く -----					

## タイ語（初級）(2)

### [成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題（およそ500点）、総合の課題（およそ100点）を合計し、100点満点に換算して評価する。

### [教科書]

宮本マラシー・村上忠良『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

### [参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387  
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### （その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85202 LJ48				
授業科目名 <英訳>	タイ語 (初級) Thai II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 弓庭 育子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。					
<b>[到達目標]</b>					
発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。					
【学習内容：会話】 1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認 2．第6課6．1～6．2 指示代名詞 3．第6課6．3～6．4 程度の表現 4．第6課 味覚表現 5．第7課7．1～7．2 希望、要求の表現 6．第7課7．3～7．5 許可の表現 7．第7課 交通機関の名称 8．第8課8．1～8．2 指示形容詞 9．第8課8．3～8．4 義務の表現 10．第8課 時刻の表現 11．第9課9．1～9．2 順序の表現 12．第9課9．3 方向、方角の表現 13．第10課10．1～10．2 目的の表現 14．総復習 15．フィードバック					
<b>[履修要件]</b>					
タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。 効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。					
----- タイ語 (初級) (2)へ続く -----					

## タイ語（初級）(2)

### [成績評価の方法・観点]

講義中の小テスト（およそ500点）、学期末テスト（およそ100点）を合計し、100点満点に換算して評価する。

### [教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

### [参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387  
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

### （その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85204 LJ48				
授業科目名 <英訳>	インドネシア語 (初級) Indonesian I	担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。					
<b>[到達目標]</b>					
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。          なお、授業冒頭に語彙に関する小テスト(全10回)を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション</li> <li>2.名詞文</li> <li>3.発音と表記法</li> <li>4.人称代名詞</li> <li>5.基語動詞</li> <li>6.ber-動詞</li> <li>7.meN-動詞</li> <li>8.7回までの学習内容の確認</li> <li>9.アスペクト、助数詞</li> <li>10.疑問文、疑問詞</li> <li>11.受動</li> <li>12.時間表現</li> <li>13.接尾辞 -an</li> <li>14.接頭辞 pe-, peN-</li> <li>15.前期学習内容の確認</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
<p>平常点評価100%          なお平常点評価は、語彙小テストの結果(50%)及び第15回「前期学習内容の確認」に対する評価(50%)で構成される。</p>					
<b>[教科書]</b>					
森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3					
----- インドネシア語 (初級)(2)へ続く -----					

インドネシア語 (初級)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に適宜紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

**(その他(オフィスアワー等))**

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85205 LJ48				
授業科目名 <英訳>	インドネシア語 (初級) Indonesian II	担当者所属・ 職名・氏名	京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。					
<b>[到達目標]</b>					
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、授業冒頭に語彙に関する小テスト(全10回)を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的表現の復習</li> <li>2. 程度の副詞、接頭辞 se-</li> <li>3. 比較級、最上級</li> <li>4. 接頭辞 ter-</li> <li>5. 前置詞</li> <li>6. 接続詞</li> <li>7. 関係詞 yang</li> <li>8. 7回までの授業内容の確認</li> <li>9. 接辞 peN-an、 per-an</li> <li>10. 複合語、接辞 ke-an</li> <li>11. 命令文</li> <li>12. meN-kan動詞、meN-i 動詞</li> <li>13. memper- 動詞</li> <li>14. 畳語</li> <li>15. 後期学習内容の確認</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
インドネシア語I(初級)の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
<p>平常点評価100% なお平常点評価は、語彙小テストの結果(50%)及び第15回「後期学習内容の確認」に対する評価(50%)で構成される。</p>					
----- インドネシア語 (初級)(2)へ続く -----					

インドネシア語（初級）(2)

**[教科書]**

森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に適宜紹介する。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85208 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ビルマ（ミャンマー）語I（初級） Myanmar I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 本行 沙織		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	（対面授業科目）		使用言語 日本語
【授業の概要・目的】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。</li> <li>・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。</li> <li>・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。</li> </ul>					
【到達目標】					
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。					
【授業計画と内容】					
第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音 第2回 文字1（基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字） 第3回 文字2（軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序） 第4回 第1課 それはココヤシの実です 第5回 第2課 元気です 第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません 第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか？ 第8回 第4課 ご飯食べましたか？、練習問題2 第9回 第5課 マンダレーに行きます 第10回 第6課 何の仕事をしているんですか？ 第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります 第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです 第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4 第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか？ 第15回 これまでの授業内容の復習					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
授業への参加状況、小テスト(50点)、期末試験(50点)					
----- ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(2)へ続く -----					

ビルマ（ミャンマー）語（初級）（2）

**【教科書】**

加藤昌彦 『ニューエクスプレス+ ビルマ語』（白水社）ISBN:978-4560088142

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

- ・ 予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。
- ・ 授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85209 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ベトナム語 (初級) Vietnamese I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 吉本 康子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語を正しく読み上げることができる。</li> <li>・挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。</li> <li>・言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある。テキスト1課から6課の内容(発音)は各回で少しずつ取り入れる。					
第1回        ガイダンス 第2-4回    7課 第5-7回    8課 第8-10回   9課 第11-12回 10課 第13-14回 11課 第15回    まとめ					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点及び最終回に行う確認テストにより評価する。					
<b>[教科書]</b>					
清水政明『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』(大阪大学出版会) ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。					
----- ベトナム語 (初級) (2)へ続く -----					

ベトナム語 (初級)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85210 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ベトナム語 (初級) Vietnamese II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 吉本 康子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を正しく読むことができる</li> <li>現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話を行うことができる</li> <li>言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある。					
第1-3回 12課 第4-6回 13課 第7-8回 14課 第9-10回 15課 第11-12回 16課 第13-14回 17課 第15回 まとめ					
<b>[履修要件]</b>					
ベトナム語 を履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点及び最終回に行う確認テストにより評価する。					
<b>[教科書]</b>					
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』(大阪大学出版会) ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。					
----- ベトナム語 (初級) (2)へ続く -----					

ベトナム語 (初級)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85211 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ベトナム語 (中級) Vietnamese III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊藤 正子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
参加者が博士予備論文 (修士論文) 執筆のために使用するベトナム語資料を日本語に訳す練習を行い、ベトナム語の文章の読解力向上をはかる。					
<b>[到達目標]</b>					
新聞や論文の読解を通じて、辞書なしで概要を理解できるようにする。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
履修者は毎回予習をして授業に臨むこと。					
<b>[履修要件]</b>					
ベトナム語初級の既習者対象 ベトナム語文献を日本語に訳す練習を行うので、それに見合った日本語能力をもつ者に限る					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点評価					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>					
毎回、ベトナム語テキストを日本語に訳してから授業に出席すること。					
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 85221 LJ48				
授業科目名 <英訳>	アラビア語 (初級) Arabic I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の基礎文法の習得を目指します。					
<b>[到達目標]</b>					
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
アラビア語の基礎文法について次の事項を中心に学びます。 (1) アラビア語の概説 (2) 文字と発音 (3) 品詞分類 (4) 名詞の性・数・格変化(イウラーブ) (5) 人称代名詞・指示代名詞 (6) 名詞文 (7) 名詞の修飾関係 (8) 属格連結(イダーファ) (9) 関係形容詞(ニスバ) (10) 語根の概念と動詞の原型 (11) 動詞の類型 (12) 動詞の活用(完了形) (13) 派生語 (14) 行為者名詞・受動名詞 (15) 動詞の活用(未完了形)					
<b>[履修要件]</b>					
アラビア文字が学習済みであること。 大学院レベルのアラビア語の授業をしますので、初歩的な解説を希望の学生は学部開講科目を受講してください。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点(出席および授業中に出される課題)					
<b>[教科書]</b>					
小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター(KIAS)・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018)					
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----					

## アラビア語 (初級)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』(白水社、2013)

竹田敏之 『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代: 湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』(ナカニシヤ出版、2019)

Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.) 『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』(4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994)

### [授業外学修(予習・復習)等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

### (その他(オフィスアワー等))

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85222 LJ48				
授業科目名 <英訳>	アラビア語 (初級) Arabic II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	水2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の文法理解をさらに深め、読解力の向上を目指します。					
<b>[到達目標]</b>					
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>文法については次の事項を中心に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 受動態</li> <li>(2) 動詞の用法(接続法・要求法)</li> <li>(3) 命令形</li> <li>(4) 辞詞の用法</li> <li>(5) 比較級・最上級</li> <li>(6) 対格の特殊用法</li> <li>(7) カーナの用法と動詞の時制</li> <li>(8) 派生形</li> <li>(9) 正動詞と弱動詞</li> <li>(10) インナとその姉妹語</li> <li>(11) 関係代名詞</li> <li>(12) 条件文</li> <li>(13) 数詞の用法</li> <li>(14) 辞書学</li> <li>(15) 韻律と脚韻</li> </ul>					
<b>[履修要件]</b>					
アラビア語 を履修済みであること。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点(出席および授業中に出される課題)					
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----					

## アラビア語（初級）(2)

### [教科書]

小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018）

### [参考書等]

（参考書）

竹田敏之『アラビア語表現とことんトレーニング』（白水社、2013）

竹田敏之『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019）

Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.)『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』（4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994）

### [授業外学修（予習・復習）等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこよう。

### （その他（オフィスアワー等））

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85223 LJ48				
授業科目名 <英訳>	アラビア語 (中級) Arabic III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。					
<b>[到達目標]</b>					
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3~4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。					
<b>[履修要件]</b>					
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点 (出席および授業中のパフォーマンス)。					
<b>[教科書]</b>					
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 (Bayrut: Turath, 2005)					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書)					
竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』 (白水社、2013)					
竹田敏之 『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代: 湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』 (ナカニシヤ出版、2019)					
小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール 『現代中東地域研究のためのアラビア語: 実践文法と用例』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS)・ハダリー・イスラーム地域研究センター、2018)					
Hans Wehr (ed.) and Milton Cowan (English ed.) 『A Dictionary of Modern Written Arabic (Arabic-English)』 (4th ed., Ithaca / New York: Spoken Language Services, 1994)					
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。					
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>					
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。					
(その他 (オフィスアワー等))					
教科書については、初回の授業で説明します。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 85227 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ペルシア語 (初級) Persian I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	水1	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
ペルシア語は、アラビア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。					
<b>[到達目標]</b>					
ペルシア語の基本文法を習得し、初級の講読ができるようになるると同時に、現地に行った際、最低限の会話ができるレベルを目標とする。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
テキストに基づき毎週進み、ペルシア語初級文法を半年で習得するとともに、講読の訓練を行う。					
1．イントロダクション 2～14．基本文法を教科書に従って学んだ後に、講読を行う。 15．全体のまとめ					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。					
<b>[教科書]</b>					
吉枝聡子 『ペルシア語文法ハンドブック』 (白水社) ISBN:9784560085691					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 黒柳恒男 『ペ日・日ペ 現代ペルシア語辞典 (合本)』 (大学書林) ISBN:9784475000901 岡田恵美子 『ペルシヤ語基本単語2000』 (語研) ISBN:978-4-87615-663-4 西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』 (ミネルヴァ書房, 2021年) ISBN:9784623091782 (30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。) その他、授業中に紹介する。					
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>					
テキストは毎回予習することが必要である。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。					
(その他 (オフィスアワー等))					
小テストを行うため、十分な予習・復習が必要である。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA05 85239 LJ48				
授業科目名 <英訳>	トルコ語 II (初級) Turkish II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 特任助教 鈴木 麻菜美		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木2	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
トルコ語は、アラビア語・ペルシア語と並ぶイスラーム世界の主要言語のひとつです。この講義では基本的な文法をもとに初級レベルのテキストの読解できるようになること、現地に行って最低限の会話ができるようになることを目的としています。					
<b>[到達目標]</b>					
この講義では、文法の習得とともに、初級レベルのテキストが読解できるようになること、最終的には自身の研究分野でトルコ語の論文を読解できるようになることを目指します。また、プラクティカル・ランゲージ習得のためには相当数の単語を覚える必要が出てきますので、受講生には心の準備をしておいていただきたいです。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
前半は教科書 掲載の短いテキストを用いて、トルコ語の文章に慣れつつ読解力を身に着けます。後半からは受講者自身に関心のあるトルコ語の論文などのテキストを持ち寄ってもらい、一緒に読解していきます。進め方としては、予めテキストの指定の箇所を読み解いておいてもらい、授業時間中に不明点の確認と解答を行うことで、確実にトルコ語の文法と読解力を身に着けることを目指します。必要に応じて、教科書 をもとに初級文法の学習も行います。講義の内容としては、おおむね次の順序で行う予定ですが、受講者の文法習得の度合いに応じて教科書を変更する可能性があります。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 教科書 第1課～第5課</li> <li>3. 第6課～第10課</li> <li>4. 第11課～第15課</li> <li>5. 第16課～第20課</li> <li>6. 第21課～第25課</li> <li>7. 第26課～第30課</li> <li>8. 講読 (1)</li> <li>9. 講読 (2)</li> <li>10. 講読 (3)</li> <li>11. 講読 (4)</li> <li>12. 講読 (5)</li> <li>13. 講読 (6)</li> <li>14. 講読 (7)</li> <li>15. 講読 (8)</li> </ol>					
----- トルコ語 II (初級) (2)へ続く -----					

## トルコ語Ⅱ(初級)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業内での小テストを含む平常点で採点しますが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もあります。

### 【教科書】

教科書 勝田茂 『中級トルコ語 読解と応用作文』(大学書林、2007) ISBN:978-4-475-01882-11

教科書 勝田茂 『トルコ語文法読本』(大学書林、1986) ISBN:978-4-475-01778-7

### 【参考書等】

(参考書)

林徹 『トルコ語文法ハンドブック』(白水社、2013) ISBN:978-4-560-08621-6

宮下遼 『トルコ語(世界の言語シリーズ16)』(大阪大学出版会、2021) ISBN:978-4-87259-341-9

### 【授業外学修(予習・復習)等】

語学は絶え間ない予習と復習の繰り返しによってしか習得できないものですので、各回の予復習には相当の時間をかけていただけるようお願いいたします。また、講義内容として示している通り皆さんの予習を前提として授業を進めていくこととなるので、そのつもりで授業に臨んでいただければと思います。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85229 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語 (初級) Hindi I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 濱谷 真理子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>ことばを学ぶことは、そのことばが使われている文化・社会のものの見方や価値観、身体技法や慣習を学ぶことでもある。ヒンディー語といえばインドというイメージがあるかもしれないが、日常的にヒンディー語を話す人びとだけでなく、少し話せる人や聞けばわかる人も含めれば、使用地域は南アジアの多岐にわたる。さらに、近年インド系移民が世界各地に展開していることで、ヒンディー語が使える場はグローバルなレベルで拡大しつつある。</p> <p>本授業は、発展著しいヒンディー語の基礎を学ぶための授業であるが、ヒンディー語が主に使われている北インド、及びヒンディー語を理解する人びとが多く暮らす南アジア地域の文化・社会についても理解を深めることをめざす。ヒンディー語は日本語と少し似ている部分があり、日本人には比較的習得しやすい言語である。インドや南アジアに関心のある学生は、ぜひ気軽に受講して、ヒンディー語を楽しんでもらいたい。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ヒンディー語の初等文法を習得する。</li> <li>2.簡単なヒンディー語会話ができるようになる。</li> <li>3.ヒンディー語を通じてインド・南アジア地域の文化・社会について理解を深める。</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>全20課から成る教科書の前半(1-10課)を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもあ</p> <p>る。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語映画を鑑賞したり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2-4文字と発音</li> <li>5-14 文法と会話</li> <li>15 前期・期末試験</li> <li>16 試験のフィードバック</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
授業には継続的に参加すること。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点(50%)と筆記試験(50%)で評価する。					
<b>[教科書]</b>					
町田和彦 『ニューエクスプレスプラス ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN:978-4-560-08862-3					
----- ヒンディー語 (初級)(2)へ続く -----					

ヒンディー語 (初級)(2)

[参考書等]

(参考書)

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレスヒンディー語』 (白水社、1986年) ISBN:4-560-00768-3 (絶版のため入手困難。授業で適宜配布する。)

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself Hindi』 (London: Hodder Education, 1989) ISBN: 978-0340866870

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド・南アジア地域の情報に関心を持ち、主体的に情報収集すること。

(その他(オフィスアワー等))

時間：授業終了後～17:30ごろまで

場所：文学部非常勤講師控室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85230 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語 (初級) Hindi II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 濱谷 真理子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	金4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>ことばを学ぶことは、そのことばが使われている文化・社会のものの見方や価値観、身体技法や慣習を学ぶことでもある。ヒンディー語といえばインドというイメージがあるかもしれないが、日常的にヒンディー語を話す人びとだけでなく、少し話せる人や聞けばわかる人も含めれば、使用地域は南アジアの多岐にわたる。さらに、近年インド系移民が世界各地に展開していることで、ヒンディー語が使える場はグローバルなレベルで拡大しつつある。</p> <p>本授業は、発展著しいヒンディー語の基礎を学ぶための授業であるが、ヒンディー語が主に使われている北インド、及びヒンディー語を理解する人びとが多く暮らす南アジア地域の文化・社会についても理解を深めることをめざす。ヒンディー語は日本語と少し似ている部分があり、日本人には比較的習得しやすい言語である。インドや南アジアに関心のある学生は、ぜひ気軽に受講して、ヒンディー語を楽しんでもらいたい。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ヒンディー語の初等文法を習得する。</li> <li>2.簡単なヒンディー語会話ができるようになる。</li> <li>3.ヒンディー語を通じてインド・南アジア地域の文化・社会について理解を深める。</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>全20課から成る教科書の後半(11-20課)を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語映画を鑑賞したり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。</p> <p>1-10 文法と会話 11-14 映画鑑賞・文献読解 15 後期・期末試験 16 試験のフィードバック</p>					
<b>[履修要件]</b>					
ヒンディー語 (初級)を履修済みであることが望ましい。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点(50%)と筆記試験(50%)で評価する。					
<b>[教科書]</b>					
町田和彦 『ニューエクスプレスプラス ヒンディー語』(白水社、2020年) ISBN:978-4-560-08862-3					
----- ヒンディー語 (初級)(2)へ続く -----					

## ヒンディー語 (初級)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレスヒンディー語』 (白水社、1986年) ISBN:4-560-00768-3 (絶版のため入手困難。授業で適宜配布する。)

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself Hindi』 (London: Hodder Education, 1989) ISBN: 978-0340866870

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド・南アジア地域の情報に関心を持ち、主体的に情報収集すること。

### (その他(オフィスアワー等))

時間：授業終了後から17:30ごろまで

場所：文学部非常勤講師控室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85236 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語特講I Special Course in Hindi I	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2.日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3.自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4.単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>本授業の授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：読解と聴解（書き取りを含む）  第6～10週目：読解と聴解（書き取りを含む）、会話練習  第12～15週目：読解と聴解（書き取りを含む）、作文練習</p> <p>読解と聴解の題材は、インド神話、Akbar and Birbal、Panchatantra、会話、新聞記事、ニュース、ドキュメンタリー等を予定している。</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。また、授業の区切りごと（約5週間を目安）にフィードバックを行う。</p>					
<b>【履修要件】</b>					
<p>語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</p>					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加（特に授業ごとの課題の提出）（40%）</li> <li>・期末試験あるいはレポート（60%）</li> </ul> <p>なお、5回以上授業を欠席した場合には、不合格とする。</p>					
----- ヒンディー語特講I(2)へ続く -----					

## ヒンディー語特講I(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))  
[https://loilonote.app/login/lms?backTo=%2F\\_%2F](https://loilonote.app/login/lms?backTo=%2F_%2F)(LoiLoNote School)

### [授業外学修(予習・復習)等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### (その他(オフィスアワー等))

ロイロノート・スクールのIDは受講決定後に作成する予定。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85237 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語特講II Special Course in Hindi II	担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>本授業の授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：読解と聴解（書き取りを含む）  第6～10週目：読解と聴解（書き取りを含む）、会話練習  第12～15週目：読解と聴解（書き取りを含む）、作文練習</p> <p>読解と聴解の題材は、インド神話、Akbar and Birbal、Panchatantra、会話、新聞記事、ニュース、ドキュメンタリー等を予定している。</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。また、授業の区切りごと（約5週間を目安）にフィードバックを行う。</p>					
<b>[履修要件]</b>					
<p>語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</p>					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への積極的な参加（特に授業ごとの課題の提出）（40%）</li> <li>・ 期末試験あるいはレポート（60%）</li> </ul> <p>なお、5回以上授業を欠席した場合には、不合格とする。</p>					
----- ヒンディー語特講II(2)へ続く -----					

## ヒンディー語特講II(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)( Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National )  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS ( インドのニュース・報道専門番組 ))  
<https://khabar.ndtv.com/>(NDTV ( インドのニュース・報道専門番組 ))  
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak ( インドのニュース・報道専門番組 ))  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta ( インドのヒンディー語新聞 ))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times ( インドのヒンディー語新聞 ))  
<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran ( インドのヒンディー語新聞 ))  
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID ( 教育用Video SNSサービス ))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets ( 復習用オンライン・アプリケーション ))  
[https://loilonote.app/login/lms?backTo=%2F\\_%2F](https://loilonote.app/login/lms?backTo=%2F_%2F)(LoiLoNote School)

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

・毎週の課題は、ロイロノート・スクール上に授業開始前までに提出すること。  
・毎日5分程度でよいので、関心のあるヒンディー語の動画サイトを見、ヒンディー語の文字に触れること。

### (その他 ( オフィスアワー等 ) )

ロイロノート・スクールのIDは受講決定後に作成する予定。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85233 LJ48				
授業科目名 <英訳>	ネパール語I (初級) Nepalese I	担当者所属・ 職名・氏名	立命館大学 非常勤講師 橋 健一		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	木3	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
ネパール語の言語学的な位置づけを確認したうえで、文法の基礎を解説する。さらに課題やロールプレイにより、参加者が基本的な会話能力、読み書き能力を身につけられるよう促していく。					
<b>[到達目標]</b>					
ネパール語の文法の基礎を理解し、会話、読み書き能力を身につける。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
毎回の内容は、以下を計画しているが、参加者の習熟度と要望を確認しつつ、適宜、変更する。					
第1回：ネパール語の言語学的な位置づけと発音、文字 第2回：代名詞と疑問詞 第3回：コピュラ 第4回：コピュラ 第5回：コピュラ 第6回：一般動詞 第7回：現在分詞 第8回：過去形 第9回：過去分詞 第10回：現在完了 第11回：第二現在完了と過去完了 第12回：進行分詞と現在進行形 第13回：複合動詞と複合分詞 第14回：現在進行形 第15回：未来形					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点と小テストによる。					
----- ネパール語I (初級) (2)へ続く -----					

## ネパール語I(初級) (2)

### [教科書]

下記、関連URLにある 石井溥著「東京外国語大学ネパール語研修テキスト」、石井溥著「東京外国語大学 ネパール語語彙集」を教科書として使用する。各自でダウンロードすること。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81968/1/A214.pdf>(石井溥著「東京外国語大学ネパール語研修テキスト」)

<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/82688>(石井溥著「東京外国語大学 ネパール語語彙集」)

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

### (その他(オフィスアワー等))

相談があればメール以外に授業時間前後に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85241 LJ48				
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (初級) Swahili I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語は、タンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。教科書を用いて会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。付属CDを利用して発音を学び、スワヒリ語の会話を聞き取り自ら表現する能力を向上させる。ただし難解な文ではなく日常会話の中で使用される具体的な表現を目標とする。また教科書の会話表現には、衣食住や習慣など文化的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関する知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する。  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる。  3：短い日常会話の流れを把握できる。  4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要  第2回 第1課 / 現在時制  第3回 第2課 / コピュラ文  第4回 第4課 / 所有表現  第5回 第5課 / 未来時制  第6回 名詞クラス  第7回 第3課 / 存在表現  第8回 第1～5課の復習と補足説明  第9回 第6課 / あいさつ表現  第10回 第7課 / 過去時制  第11回 第8課 / 完了時制  第12回 第9課 / 形容詞  第13回 第10課 / 接続形  第14回 第6～10課の復習と補足説明  第15回 期末試験  第16回 フィードバック  なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
----- スワヒリ語 (初級) (2)へ続く -----					

## スワヒリ語（初級）(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### 【教科書】

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/wl/sw/index.html>（大阪大学言語文化研究科言語社会専攻/日本語専攻）高度外国語教育全国配信システムプロジェクトによるスワヒリ語独習コンテンツ。「文字と発音」では、実際の発音を映像付きで確認できる。）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。  
課題の提出を求められる場合がある。

### （その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85242 LJ48			
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語 (中級) Swahili II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 井戸根 綾子		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・後期
曜時限	火3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>教科書はスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説とともに文法を学び、作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。教科書の基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。</p>					
【到達目標】					
<p>1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解し、口語的・実践的な表現の理解を向上させる。  2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる。  3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる。  4：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 イントロダクション / 第1～10課の復習  第2回 第11課 / 時間  第3回 第12課 / 指示詞  第4回 第13課 / 使役  第5回 第14課 / 条件節  第6回 関係節  第7回 第15課 / 受身  第8回 第11～15課の復習と補足説明  第9回 第16課 / 相互形  第10回 第17課 / 仮想時制  第11回 第18課 / 複合時制  第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ  第13回 第20課 / 手紙の書き方  第14回 第16～20課の復習と補足説明  第15回 期末試験  第16回 フィードバック  なお、授業の進度は適宜調整する。</p>					
【履修要件】					
特になし					
----- スワヒリ語 (中級) (2)へ続く -----					

## スワヒリ語（中級）(2)

### [成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

### [教科書]

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社, 2018）ISBN:978-4-560-08805-0

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各課の予習・復習は必須とする。各課の本文については、予め付属のCDを聴いておくこと。  
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。  
課題の提出を求められる場合がある。

### （その他（オフィスアワー等））

授業時間外でご質問などがある際はメールでご連絡ください。メールアドレスはKULASISのオフィスアワーで確認できます。授業に関するお知らせなどについてはPandAを利用しますので、PandAのチェックを怠らないようにして最新の情報にご注意ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA05 85243 LJ48				
授業科目名 <英訳>	アムハラ語 (初級) Amharic I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 若狭 基道		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期集中
曜時限	集中講義	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
アムハラ語は、エチオピアにおける主要言語のひとつである。独自の文字を有し、同国のアムハラ州や、首都アジスアベバをはじめとする都市を中心に広く通用する。本講義では、アムハラ語の基礎的な会話、文法、文字、に加えて、言語の使用と関連した地域文化を扱う。					
<b>[到達目標]</b>					
アムハラ語の基礎的な会話、文法および文字の習得を目指すとともに、言語の使用と関連した地域文化への理解を深めてもらう。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回 文字と発音1 第2回 文字と発音2 第3回 エチオピア文字の練習(兼基本単語) 第4回 コピュラ(「～である」)現在形 第5回 名詞の変化 第6回 動詞完了形 第7回 前置詞・後置詞 第8回 存在詞 第9回 言語のフィールドワーク 第10回 動詞未完了形 第11回 接尾代名詞 第12回 エチオピアの言語景観 第13回 動詞その他の形 第14回 派生形 第15回 テキスト購読(兼様々な従属節)					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
出席と授業への参加状況にもとづいて評価する。					
<b>[教科書]</b>					
プリントを配布する。					
----- アムハラ語 (初級) (2)へ続く -----					

## アムハラ語（初級）(2)

### [参考書等]

（参考書）

若狭基道『ニューエクスプレスプラスアムハラ語』（白水社、2021年）ISBN:ISBN978-4-560-08918-7

### [授業外学修（予習・復習）等]

配布プリントにあるエチオピア文字で書かれた例文を音読し、ヒントを基に意味を考えてから授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

講義についての相談・問い合わせはmotomichiwakasa@nifty.com宛にお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85248 LJ48			
授業科目名 <英訳>	ウォロフ語 (初級) Wolof I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 阿毛 香絵		
配当学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・開講期	2025・前期
曜時限	その他	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>本講座は、西アフリカのセネガル共和国を中心に近隣諸国で話されているウォロフ語について、フィールド調査を前提とした基礎的な語学力の習得を目的とする。ウォロフ語はセネガル国民の9割以上が日常的に使用している言語であり、セネガルの「国語」に認定されている。ウォロフの人々が主な話者であるが、セネガルと近隣地域におけるその他の民族出身の人々によっても広く理解され、話される地域共通語となっている。現在ではアルファベット表記が標準化されているが、スーフィー教団など宗教的な文脈では、アラビア文字を用いたウォロファルと言われる表記法も使用されてきた。また、音声言語としてのウォロフ語は近年のメディアの発展に伴い、ラジオやテレビ、SNS等の媒体を通して広く使用され、流通している。</p> <p>本講座では、日常会話に利用される文法表現や語彙を中心に習得することで、基礎的な会話力をつけることを目的とする。また、時に文章読解や現地のニュース番組などの視聴覚資料を用いた理解から、フィールド調査で活用できる基礎的な語学力と読解力の習得を目指す。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォロフ語の基礎的な文法を理解し、日常的な会話ができる能力を習得する。</li> <li>・フィールド調査および現地のウォロフ語資料の理解に必要な語彙力、読解力を習得する。</li> <li>・言語理解に必要な不可欠なウォロフの民族文化や社会、それに伴う概念を理解する。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認</li> <li>2. 第1課 ウォロフ語の表記法と発音 / 基本の挨拶表現</li> <li>3. 第2課 節(文)の構成 / 自己紹介表現、国籍・職業(La活用基本)</li> <li>4. 第3課 クラスと冠詞 / 指示代名詞 / 生活の中の語彙</li> <li>5. 第4課 現在形: 基本の三種類 Dafa活用 / 人やものについて話す</li> <li>6. 第5課 現在形: 基本の三種類 Mu ngi活用 / 動作、行動について話す</li> <li>7. 第6課 現在形: 基本の三種類 La活用応用 / 強調表現</li> <li>8. 第7課 命令形・接尾語 / 命令する・おねがいする</li> <li>9. 第8課 未完了・現在進行形 / 今していること・これからすることを話す</li> <li>10. 第9課 否定形のまとめと練習</li> <li>11. 第10課 過去形・完了形 / 過去にしたことを話す</li> <li>12. 第11課 過去形・過去進行形 / 過去にしていたことを話す</li> <li>13. 第12課 未来形</li> <li>14. 第13課 助動詞(補助動詞) / 経験や可能性について話す</li> <li>15. 総括・フィードバック</li> </ol> <p>レッスンの順番や進行速度は履修者の習得レベルを考慮して変更することがある。</p>					
----- ウォロフ語 (初級)(2)へ続く -----					

ウォロフ語 (初級)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

小テストや会話テストを含む平常点で採点する。必要に応じて中間テスト、期末テストを実施する。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

梶茂樹, ジャン=レオポルド・ジュフ 『ウォロフ語入門』 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994)

Jean Leopold DIOUF 『Dictionnaire wolof-francais et francais-wolof』 (Karthala, 2003)

教材は授業の中で配布する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

効果的に語学を習得するため基本的に 全講義に出席し、各回の語彙や表現について、必ず復習をし、習得した上で次の講義に出席すること。積極的に会話に参加すること。

講義の中で、オンラインもしくは対面でネイティブのウォロフ語話者に参加いただき、対話の練習をすることがある。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。